

## 一般女子(-55kg)の部

優勝

平岡 琴



ニューヨーク支部で空手修行を続け、先日のオールアメリカンでは3位に入賞した平岡が関東大会を制した。常に自分の有利な間合いを取りながら勝負所で一気に攻め立てるスタイルは初戦から危なげなく勝利。世界を相手に戦ってきた実力を存分に発揮した。今後のますますの活躍に期待がかかる。

## 小学6年男子(+40kg)の部

優勝

小嶋 瑠久



今年の全国大会で優勝した小嶋が磐石の優勝。小嶋の組手スタイルは技の威力、スタミナ、コンビネーションと何拍子も揃っているが、一番の武器は「精神力」。今大会でも体格の大きな相手に攻め込まれる場面もあったが、慌てずに技を返していき、最後は確実に勝利を収めた。勝ち続ける小嶋の目は11月に行なわれる国際大会の頂点を見据えている。

## 小学3年男子(+30kg)の部

優勝

多久田和馬



今年の全国大会で準優勝という結果だった多久田が一気に優勝まで駆け上がった。決勝の相手は全国大会決勝で敗れた相手。多久田は今大会、今まで一度も勝ったことがないその相手に絶対勝つと自らに誓っていた。そして勝つからには得意の飛び技を封印して、真っ向勝負で打ち勝つことも。決勝戦、多久田は誓いどおり真っ向勝負で挑み、優勝を奪い取った。これで準備は万全。11月の国際大会で2連覇する準備はできた。

### 小学3年男子(-30kg)の部

準優勝

武元寿壱



以前から潜在能力の高さを評価されていた武元が実力を開花させた。速射砲のようなコンビネーション、絶妙なタイミングで相手を襲う上段蹴りを駆使し、圧倒的な強さで決勝進出。決勝では僅差の判定で敗れるものの今大会では見る者に強烈なインパクトを与えた。自信をつけた武元は今後更なるレベルアップをするに違いない。

### 小学女子中学年の部

準優勝

知念琉花



横浜カップを制した知念が関東大会でも実力を発揮した。

攻め込まれても慌てることなく繰り出す膝蹴りは絶妙なタイミングで相手にヒット。  
その落ち着いた戦いぶりは、普段の稽古で男子と激しい組手を行なっている成果だろう。  
決勝では3-1と僅差の判定負けを喫したが、関東でも通用する実力を証明した知念は、  
更なる高い舞台を目指す。

### 中学1年男子 (+50kg) の部

#### 第3位

#### 菅 優作



仲町台道場の菅が関東大会初入賞。  
今大会前は部活動が忙しく満足な稽古が出来なかったが、  
その分を気合と根性でカバーすると決めていた菅は初戦から激しく相手を攻め立てた。  
準決勝では身長差のある相手のリーチの長い技に屈したが、  
今大会で精神力の重要性を知った菅は次の大会で大暴れするはずだ。

✕ 閉じる